



しまね学習支援プログラム第3弾「地域魅力化プログラム」を活用したファシリテーター養成講座修了者のみなさんのその後の様子をお伝えします。



「私たちが楽しむ地域の活動」

～「三瓶地区情報交換会」をとおして～

**大田市社会教育推進センター・社会教育コーディネーター
(前:大田市立三瓶公民館・主事) 井上 優花 さん**

大田市編

令和3年度まで公民館主事として勤務しておられた井上さんは、これまで西部社会教育研修センターの「ファシリテーター養成講座」「公民館等職員研修」を受講されました。今回は、地域でそれぞれ活動されている青年団同士のつながりづくりを目的に「地域魅力化プログラム」を活用しながら取組を進めていかれた様子を紹介합니다。

●地域団体同士の“つながり”に向けて

Q:どのような経緯から取組にいたりしましたか？

井上さん 三瓶地区には、5つの団体がそれぞれ地域でイベントの開催や出店、町内美化活動などをしていましたが、コロナ禍により、ことごとく中止または縮小になってしまい、この状態が続いてしまったら…、という不安や寂しさを感じていました。そこで公民館として何か力になれることはないかなと思いました。三瓶地区の各団体の皆さんが、お互いに協力して活動を実施していく関係づくりのきっかけになれば…、そしてその先に地域課題である「担い手不足」の解消にもつながればと考え、2回シリーズによる「三瓶地区情報交換会」を開催することにしました。

Q:なぜ、2回シリーズにされたのですか？

井上さん 1回のみではじっくり話ができず、会のねらいに迫れないと思ったからです。初回は、会長さんのみの少人数でスタートしました。最初にアイスブレイクの代わりにキャンプ用品でお湯を沸かしてコーヒーを淹れることから始めてみました。キャンプ用ガスコンロに興味津々な様子の方々もおられ、和らいだ雰囲気のまま話し合いに入ることができました。話し合いでは、活動する上での悩みややってみたい事、それぞれの団体で工夫されていることなどをホワイトボードがいっぱいになるくらいの意見や想いを語ってもらいました。そして会が終わった後も、その場で交流を続けている様子が見られたのは、とてもうれしい光景でした！この会の目的であった“つながりづくり”の小さな一歩が見えたような気がしました。

●今後に向けて

Q:第2回では、ファシリテートしていて、どんなかわりを心がけていましたか？

井上さん 「第2回三瓶地区情報交換会」では、会長さんだけでなく、副会長や事務局の方達にお声かけて、集まっていただきました。前回の情報交換会で出た内容についてさらに深く掘り下げることを目的としてラベルワークを用いたワークショップ形式で行いました。(流れについては別紙進行表をご覧ください) 進行中は、安心して意見交流できるよう、実現の可能・不可能はあまり気にせず思いつく限り付箋にどんどん書いたり意見を述べたりするよう声をかけました。

Q:ファシリテートをやってみられていかがでしたか？

井上さん 「情報交換会」と「第2回情報交換会」を通して、こうすれば良かったという点はたくさんありますが、特にワークショップの進め方が少しゆっくりすぎたかなと思いました。例えば、付箋に書く際、こちらが決めた記入時間をきっちり守り過ぎたため、書き終わった人は時間を持て余している様子が見られました。その場の状況から、時間配分を考えても良かったのではと思いました。

また、ワークショップの話し合いの時間を参加者に任せ過ぎたかなという点です。グループ内で意見交流している時に、どうしても話が途切れて静かになってしまう時は、もう少し私が入って会話をつなげられるようなことを助言すればよかったなと思い、進行の難しさを感じました。

第1・2回目で、両方とも全体的にゆったりとした会だったなと思いました。参加者の方に、楽しみながら参加してもらえよう、今後は演出に工夫を凝らすことにもチャレンジしていきたいです！